

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を促す顕在的方法と 潜在的方法に関する考察

A study of the formal and informal method making a smooth connection
between kindergarten and elementary school

坪 井 貴 子

Takako TSUBOI

はじめに

幼稚園教育，幼児教育は「環境による教育」を基本としている。つまり，子どもが自発的に環境と相互作用して発達するという発達観を教育の原理としている。このため，子どもが関わる環境構成が重要となる。

ところで，幼稚園教育は学校教育法第22条に「幼稚園は，義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして・・・」とあるように，その後の教育とのつながりを重視する必要がある。このことは平成20年告示の幼稚園教育要領，またこれに先駆けて平成20年1月に報告された中央教育審議会答申においても，これまで以上に幼小連携が強調されている¹⁾ことからわかる。

このように，今日では，幼稚園教育において幼児期だけを見据えたねらいとそのための環境構成を考えるのではなく，小学校以降の学習も念頭に置いた経験を想定すべきであろう。ただし，ここでいう幼稚園教育における経験とは，いわゆる読み書きや計算のような直接小学校の学習の準備となるようなものを指しているのではなく，子どもがいろいろなことを学習したり生活していく上で必要となる「生きる力」の基礎となるさまざまな発達

的側面を指している。

そこで，本研究では，幼小連携に関して，実際の小学校と幼稚園の取り組みを取り上げ考察する。

I 幼小連携に関する研究

まず，平成22年11月に出された「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について」(報告)²⁾をもとに，幼小連携の現状を概観することにする。これによると，連携から接続へと発展する過程の大まかな目安として，ステップ2では「年数回の授業・行事・研究会」，ステップ3では「カリキュラムの編成の実施」と示されている。このように，最初の段階では教員や子どもたちの交流を通して，双方の学習のあり方や生活について，教員，子どもが情報交換や相互理解をすすめる段階が想定され，次に幼小連携を促すカリキュラムの編成へと向かっていくのが通常とられる道筋といえる。

また，秋田(2010)は，10年前には，幼小連携の取り組みが学校単位で行われていたものが，近年徐々に地域ベースで実施されるようになったとみており，連携への取り組みの実践が広がりを見せていることがわかる。

先述したように、連携、接続には段階及びいくつかの側面が含まれるため、それらについて、先行研究を概観することにする。

先の報告書における接続の段階とも一部重なるが、先行研究は、①スムーズな接続のための間接的な要因となる、子どもの生の声や教員、保護者の意識から戸惑いや問題点を明らかにする研究（棕田・鈴木，2009，山田・大伴，2010），②幼小連携の実践（庄司・野田，2009），③カリキュラムに関するもの（白川・東・西島・荒松・中島，2010，佐藤，2010，井上・朝倉・池田・中山・吉原・青原・石井・金田，2010）などに分かれる。

Ⅱ 幼小連携の取り組み

東海地方のY市は人口約31万4千人余りの地方都市である。幼（保）小中の連携に関しては、平成15年度から市内の1校区をモデル校区として始められた。市全体の取り組みとしては平成18年度より市内の中学校を単位とした校区22校区で開始され、現在は取り組みも5年目となっている。取り組みも年々充実してきており、平成20年度からは校区内の保育所も実践に参加するようになった。

1. 幼小交流

Y市の1校区で2010年度に実施された幼（保）小の2回の交流の実践を観察した。

（1）2010年11月12日（金）

Y市立K小学校1年生（5クラス）とY市立K幼稚園の交流が、K小学校で行われた。交流活動の内容は以下の通りである。

○体育館での交流活動

- ・11：45～12：30（4時間目）
- ・1年生2組，5組
- ・5歳児29人

11：50～ 数集まりゲーム

小学校の教師が指示した人数に合わせてグループを作る。4回行われた。指示通りの人数でグループを作れなかった人は、皆の前で自分の名前を言う。幼児も名前が言えていた。2回目になると、教師の手助けで、小学生と幼児と一緒にグループを作ることが出来るようになった。

12：00～ なべなべそこぬけ

数集まりゲームの4回目で2人組を作り、そのペアのまま「なべなべそこぬけ」を行った。

12：02～ じゃんけん列車

最初は2人組でじゃんけんをして、負けた人が勝った人の後ろにつながる。次に2人組の先頭同士がじゃんけんを行い、負けたペアが勝ったペアの後ろにつながる。このようにじゃんけんを繰り返し、幼児と小学生が混じった列車が徐々に長くなっていった。

12：10～ 小学生の歌の披露

5組 校歌

2組 はじめの一步

○給食

- ・12：30～13：20
- ・1年生1組，3組，4組
- ・5歳児は3クラスに分かれる。

小学生がグループになっているところに幼児は1，2名ずつ入れてもらい、一緒に給食を食べた。片付けの時に牛乳パックを分解し、決まった場所に捨てる仕方を，5歳児は1年生から教えてもらった。

＜事後アンケートの実施＞

小学校、幼稚園両方に同じ質問からなる簡単なアンケートを依頼し、それぞれ代表の教員に交流活動について回答してもらった。以下がその結果である。

【小学校】

①交流活動の目標や期待していたこと

- ・1年先輩として、お兄さんお姉さんらしく行動できる。
- ・幼稚園の子どもたちと一緒に仲良く遊んだり、給食を食べたりできる。

※1年生は小学校の中で一番下級生として過ごしてきている。班登校や学校での活動など、普段はお世話されたり気を遣ってもらったりする立場である。そんな1年生が、お世話する立場となることで、いつもと違った姿を見せてくれることを期待している。また、来年度2年生へ進級する意欲付けとなることも期待している。

②当日、子どもたちの姿をどのように受け止めたか

- ・普段、行動が遅かったり、他の子どもたちと協力できなかったりする子どもも、幼稚園の子どもをリードして行動できていた。

③交流活動後の振り返りや他の活動へ発展させたかどうか

- ・あのねノートに感想を書かせた。
- ・良かったことやおもしろかったことを個々に発表させ、聴き取った。
- ・音楽の時間に、もう一度同じゲームをしたり、歌ったりして楽しんだ。

【幼稚園】

①交流活動の目標や期待していたこと

（こだわりが強く、初めての活動に対して不安が強い幼児が何人もいたので）

- ・小学校（施設面）に慣れ、交流がプラス体験となり安心して4月が迎えられる経験とする。
- ・1年生や学校の先生（人的環境面）とすごすことで、顔なじみになりゲームやふれあい遊びを通して人との関わりを学ぶ。
- ・（週1回のデリバリー給食を除き日頃は弁当なので）給食を試食することで皆と同じメニューを食べることで配膳や片付けの仕方などを知る。
- ・（就学児検診を終えたばかりなので）気になる幼児の姿を校長先生に見ていただき、4月からの支援や配慮に活かす。

②当日、子どもたちの姿をどのように受け止めたか

- ・全員、参加でき良かった。今回の経験で次回の2月の学校探検も楽しみにできると思う。
- ・不安の強い幼児もどうにか交流できたが、後半園児とぶつかり泣いた。本人なりに気を張っていたのだと感じた。
- ・サヨナラをする時、自己表現しにくい女児が小学校の先生に聞かれ、はっきりとした口調で名前を言うことができ、その後も自信になった。

③交流活動後の振り返りや他の活動へ発展させたかどうか

- ・事前に1人でもいいから（1年生の）名前を覚えて来てね、と働きかけをしてあったのでその名前を皆の前で発表する機会を持った。

- ・皆の前で自分の名前が言えたよ、給食のお代わりが出来たよ等と楽しかった事を教師が聞き取った。

(2) 2011年2月22日（水）

Y市立K小学校において、Y市立K幼稚園と同校区の1幼稚園と1保育所が、1年生5クラスに分かれて、授業を見学したり交流を行った。観察はそのうちの1クラスで行った。

【こくごを実施したクラスの観察】

○クイズ「私は何でしょう」

- ・5歳児の子どもたちは2幼稚園，1保育園の計15人程度。教室の後ろで見学。
- ・9：45～10：05

1年生の指名された子どもが前に出て事前に用意していた自分が考えたクイズを出題する。2つぐらいの特徴をあげ、「私は何でしょう」と問いかけ、それらの特徴を持つ物を当ててもらう。

他の子どもたちは質問し、答えを考えたり、自分の答えが確かかどうか確認する。担任教師が質問は5つとした。

全部で5人程度が出題し、用意された解答は、それぞれフライパン、もち、チョコレート、チョーク、信号機などだった。

1年生は形や用途や色、種類（食べ物かどうか）をうまく質問できていた。

後ろで見学していた幼児も担任教師から参加して良いと言われた後、質問を思いつくことができたり、答えを考えたり、わかることもあり、参加する事が出来た。

○製作の交流活動

- ・10：05～10：25

1年生がグループに分かれ、そこに幼児が2名ずつ入った。席は1年生が譲ってくれた。1年生はすでに折り紙を使ったプロペラの製作を事前に行っていたので、作り方がわかっていた。担任教師が見本を黒板にはり、幼児に作り方を教えるよう指示した。

教師が折り紙をグループごとに配った後、1年生は幼児に折り方、切り方を丁寧に教えた。はさみは、使う時に出すように教師が指示した。

できあがったプロペラを飛ばす時、「いすにのぼるところまで」という教師の許可があった。高いところからプロペラを離す方が滞空時間が長くなりおもしろいためである。幼児もすぐにプロペラを飛ばす要領が分かりそれぞれ楽しんでた。

2. Y市立K幼稚園の保育観察

幼小の交流活動だけではなく、日頃の保育も観察したいと思い、交流活動で観察した幼稚園の5歳児クラスで、以下の3日間の午前中に観察を行った。

2010年12月10日（金）

2010年12月17日（金）

2011年1月14日（金）

(1) 12月10日（金）

簡単な保育の流れは以下の通りである。

10：20～ 片付け・掃除

うがい後、本を読んで待つ。

10：40～ お集まり

・歌

・教師からの日常生活上の注意。

・皆の前で話をする。

10:55～ リズム遊び
11:30～ 絵本を借りる
11:45～ お弁当

<活動の補足説明>

①皆の前でお話しをする

お集まり時、グループごとに座っているが、選ばれたグループの人が、一人ずつ前に出て、集まり前までにやった活動を「私はー」という文で紹介する。中には、「場所」も入れて長い文を構文する人もいる。話をする際のルールは「人と違うことを話す」とのこと。また、教師は各自の話を拾って、みんなに共有した。

②リズム遊び

「となりのトトロ」

円形に椅子を並べ替える。教師がタンバリンとカスタネットを子どもたちに配る。以前も演奏したことがあるため、まず教師が音を鳴らしてリズムを確認した。またホワイトボードに音符でリズムを書いて見せた。

「となりのトトロ」の曲を教師のピアノに合わせて演奏してみる。リズムが難しいところは、お手本となる男児が呼ばれ、前でやってみせた。また、教師は「難しいところを練習してみて」、とか、音の鳴らしかたについては、「自分で考えてみて」と、自分でやるよう促した。

「ジングルベルーメロディベル」

教師が、メロディベルの楽譜を前に出した。(楽譜は、メロディベルのそれぞれの色と同じ色で「みみみ みみみ・・・」と書かれたもの)。

メロディベルを配る前に、一人の男児が「みんな目を瞑っとかないかんで」と言った。以前、教師がそのようにしてメロディベルを

配ったものと思われる。

教師が「今日は、1号車さん、2号車さん。自分の好きなものを選んで」とグループごとに各自自分で好きなベルを取るよう指示した。子どもたちは「ミ」のベルを使いたいらしい。なぜなら演奏の出番が多いためである。

最初に1、2号車さんが演奏した。(1回練習し、2回目を本番として2回演奏する)。1号車さんと2号車さんが前に出て、残りの子どもたちは、円形の椅子の場所を移動して観客になった。教師が「ようこそ、今日はクリスマスコンサートにおいでいただきました」などと文脈作りをした。

観客の正面の人が楽譜を持った。1回目の演奏が終わったら、一人の女児が「先生言わんといて」と教師に言った。教師が音階を言わないで、楽譜を指し示すことだけで(自分たちの力で)演奏したらしい。

教師は、「上手」、「がんばって」とピアノで伴奏を弾きながら子どもたちに働きかけた。

次は、3、4号車さんの演奏である。観客も交代した。席取りでもめているところは教師がじゃんけんで決めさせた。楽譜を指す人でもめているところも教師が交代するよう指示した。

今回も同様に1回が練習で、2回目を本番として2回演奏した。教師は「お辞儀も上手に」と働きかけた。

③弁当の準備

当番は自主的にお弁当前の準備を行う。ハンドソープとコップ用タオルを用意し、テーブルを拭き、お茶を職員室から持ってくる等が仕事である。そして、前に出て「頂きます」をする。

（2）12月17日（金）

10：20～ 片付け・掃除

10：40～ お集まり

- ・歌
- ・片付けが出来ていなかった事についての注意。
- ・A君について紹介。
- ・皆の前で話をする。

10：50～ お世話になった人に手紙を書く。

<活動の補足説明>

①片付け後のうがいの場面

5歳児は片付けの後、うがいをしていたが、いくつかの水道のうち他の水道が空いているにもかかわらず、仲のよい友達の列から離れない女児がいた。教師が、小学校に行ったら休み時間が短いので困るし、仲の良い友達が、必ずしも同じクラスにはならないかも知れないので、それでは困ると論ず。友だちも賛同してその子どもと一緒に言い聞かせる。

②お集まり時のA君に関する紹介

教師が子どもたちに「今日、A君がすごかったよ」と投げかけると、子どもたちが「何？」と応じた。教師の話は、A君が遠い自宅から歩いて登園してきた話だった。小学校になったら、ランドセルを背負って登校しなければならないので、みんなも歩く練習をする必要性があることを話した。

③お世話になった人に手紙を書く

教師は「今日は紙を持ってきた。この間友達にクリスマスカード書いたね。どうやった」と子どもたちに問いかけた。子どもたちはそれに対し「うれしかった」と応じた。教師は続けて、「今日は大人の人に書く」と伝えた。お世話になった人として、「おいも

ほり」、「はたけのおじいちゃん」、「だいこん」の3人を板書した。そして、それぞれの人にやってもらったことを子どもたちが思い出すよう、具体的に話しをした。

活動の段取りとして教師が子どもたちに次に伝えたことや行ったことは以下の通りである。

- ・手紙用の白い紙に用意された飾りを貼ってもよい。
- ・あいうえお表は黒板にはるので字を確認できること。
- ・皆はロッカーの前に移動し、その間、教師が机を3グループに分けて配置。
- ・どの机が、どの人に手紙を書くグループか指示。
- ・教師がグループごとに紙を人数分配る。それを子どもたちは自分たちで配布する（女児の一人が、その紙の配り方をみて、「お手紙を配る時みたい」という）。
- ・グループの机ごとに各自のロッカーにマーカーペンを取りに行く。その間教師がテブルクロスを敷く。
- ・手紙の文例として、教師と子どもで「～食べたよ」「また幼稚園に来てください」など例を出し合いながら話し合う。

子どもたちの中には長い手紙を書ける人もおり、以下はある子どもが書いた手紙である。

おいもほらせてくれてありがとう。ほっとぶれいとのおいもおいしかったです。
もうすぐクリスマスですね。いつもまでもげんきでいてください。

子どもたちが手紙を書いている際に、文字について気付いた点は以下のとおりである。

- ・「を」→「お」になっている。
- ・「も」の鏡文字。

- ・線を引いて文章を書く人。
- ・むずかしい「を」を知っていると説った人
→「をいしい」になっていた。

手紙を書き終わった人は、提出用の机に、宛名別に手紙を提出する。一人の女児は不揃いになっていた手紙をそろえていた。

(3) 1月14日（金）

10：00～ 片付け
10：20～ お集まり
・歌
・教師の話
10：40～ 誕生会
11：50～ 給食

<活動の補足説明>

①片付けなどについて

5歳児の保育室前の廊下の靴箱の上のホワイトボードに時計の絵と「かたづけ」、「たんじょうかい」など予定が書いてある。子どもたちはそれを見て自分で考えて行動する。

その日の片付けと掃除を、5歳児の子どもたちだけで行い、終わるまで教師を廊下に留めておき、終わってから教師を保育室に入れ、自分たちでできることをみせて教師を驚かせていた。

また、片付けの後、ある男児がみんなにトイレに行くよう勧めていた。

②お集まり時の話―「冬のカレンダー」について

冬のカレンダーは冬休み中に子どもたちが書き記したノートである。文章が書いてあったり、数字の練習もされているようであった。

教師は、冬のカレンダーに文章が書けている人もいたので、絵本が読めるかもしれないため週末の絵本の貸し出しについて、じっく

り絵本を選んでほしい旨子どもたちに話した。

③お集まり時の話―トイレ、誕生会について
小学校は時間割が1時間目、2時間目・・・となっていて休み時間の間にトイレに行かなければならない。女児は和式トイレを使う練習をする必要性がありやっているとのこと。

その日の後の予定である誕生会の態度について、小学校の授業は45分なので、誕生会でも背筋を伸ばして（教師がやってみせる）参加するように子どもたちに話した。

3. 幼小交流の実践および幼稚園の通常の保育にみる幼小連携について

(1) 幼小交流のねらいと成果

【幼稚園】

幼小交流は、5歳児が小学校入学を控えて、小学校の物的、人的環境、また給食、授業など生活の仕方に慣れる事がねらいとなっている。また、特に気になる幼児については、入学を控え、校長先生にあらかじめ様子を見てもらうことなども目的の一つとなっている。

【小学校】

1年生は交流活動で、普段のお世話をされる側からお世話する側になり行動することや、2年生への進級の動機付けが期待されている。

【幼小共通】

幼稚園、小学校とも交流の成果とし、双方の子どもたちが交流活動の目的を内化し、ふさわしい行動がとれていたとそれぞれの教師が見ている。

(2) 幼稚園5歳児後半の普段の生活に見られる小学校の学習につながる活動や教師の言及

【小学校での学習につながると思われる活動】

・皆の前で、片付け前までに行っていた活動を「私は～」と言う形式で発表する。

・お世話になった人に手紙を書く。

・自立を促す生活の仕方

ホワイトボードに書いてある予定を見て自分で考えて行動する。

当番活動。

【小学校に関わる無意図的な示唆】

完全に無意図的とはいえないが、形式的ではない形で日常的に担任教師が小学校について言及する場面がみられた（本文中実線の下線で示したもの）。

・12月17日の片付け後のうがい場面で、柔軟に行動できない幼児に対して、小学校は休み時間が短いではそのような行動では困ると諭す。

・同じ12月17日、A君が自宅から歩いて登校した事について、小学生になったら歩いて登校しなければならないので歩く練習をする必要があると伝える。

・1月14日の誕生会の前に、誕生会の参加の仕方について、小学校は45分授業なので、誕生会の間も同様に背筋を伸ばして参加するように伝える。

・1月14日、同じ誕生会前、女兒は小学校でも困らないように、和式トイレが使えるように練習していることをみんなに知らせた。

【幼児の発達に見る小学校へ移行するための素地】

子どもたちの生活する姿の中に、以下に示したような自立や自信、自己効力感などの現れが見受けられた（本文中波線の下線で示したもの）。このような発達は幼稚園教育の一つのねらいであるが、当然のことながらこのような発達に向けた教師の指導が実を結んだ

といえるであろう。そして、このような発達の様相が、その後の小学校での生活や学習につながることは間違いない。

・12月10日のメロディベルの演奏で、自分たちの力で楽譜を見て演奏したいため、教師に音階を言わないように頼んだ。

・1月14日の片付けの場面で、保育室を自分たちで片付け、そのことで教師を驚かせようとした。

おわりに

今回の観察は、交流活動、保育観察ともにわずかばかりの回数であり、幼小連携の実践に関してもその全貌を把握したとはいえない。しかし、わずかとはいえども実践の観察を通して見えてきたもの、認識を新たにしたものがあるため、ここに記してみたい。

幼小連携に関して、交流活動など顕在的な方法により、5歳児の中に小学校に関する物的、人的な環境に関する認識が形成されると思われる。

しかし、このような顕在的な方法のみで、5歳児が小学校へスムーズに移行できるのだろうか。もちろん、このような取り組みでも効果を上げていると思われるものの、保育観察で取り上げたように、インフォーマルな形での教師の折に触れた働きかけが、5歳児の中に小学校のイメージや構えを形成しているのではないだろうか。また、インフォーマルであるが故に、時機に応じた、教師の価値観も反映させた血の通った情報として子どもに有意義に伝わるのではないだろうか。

どの学校段階でも同様であろうが、特に幼児教育では、教科書によらない教師の時機を捉える力と価値観を反映した指導が環境として大変重要な意味を持つ。このような指導は形式化されていないからこそ、各教師の力量に委ねられる部分が大きいといえる。

まだ私見の段階を出ないが、幼小の滑らかな接続のために、幼児にとってこのような潜在的でインフォーマルな働きかけこそ、潜在的な経験の隙間を埋める重要な要素と言えるのではないだろうか。

ところで、幼小連携でよく言われるように、闇雲に幼小の段差をなくせば良いというものではない。段差は段差として、幼児が発達するために重要な乗り越えるべき有意義な節目といえよう。したがって、このような場合にも、潜在的な教師の働きかけが、子どもたちに段差を段差として意識させることにつながり、さらに教師の励ましにより、幼児が意識化して段差を乗り越える構えを形成できるのではないだろうか。

次に、幼小連携ではよく言及されるもう1つの面について触れておくことにする。幼小連携では、ややもすると5歳児が小学校にいきなりスムーズに移行できるかという問題ばかりに焦点が当てられるが、幼児だけではなく、小学生にとっても、幼小連携にまつわる活動がこれまで以上に有意義な活動や経験となるように互惠性を目指していく必要があると思われる。

〔注〕

- 1) 坪井貴子 2010 幼稚園と小学校低学年における学びの連続性に関する考察—幼稚園教育における「言葉」の活動と小学校1年生「国語」の検討を中心に— 金城学院大学論集（人文科学編）第7巻第1号
- 2) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方に関する調査研究協力者会議 2010 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について（報告）

〔引用・参考文献〕

- 秋田喜代美 2010 幼稚園・保育所と小学校との円滑な接続の意義 初等教育資料 No.856
- 棕田善之・鈴木正敏 2009 就学前後の子どもが感じる幼小の違いに関する研究 — 5歳と1年生時点での子どものインタビューを通して— 学校教育学研究 第21巻
- 山田有希子・大伴潔 2010 保幼・小接続期における実態と支援のあり方に関する検討 — 保幼5歳児担任・小1生担任・保護者の意識からとらえる— 東京学芸大学紀要総合教育 科学系Ⅱ 第61巻
- 庄司裕志・野田敦敬 2009 幼小連携の取り組みについての一考察 愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第12号
- 白川佳子・東ゆかり・西島大祐子・荒松礼乃・中島朋紀 2010 幼小連携のカリキュラムについての一考察（その2）—小学1年生の「朝の会」「体育」「音楽」の授業観察を通して— 鎌倉女子大学紀要 第17号
- 佐藤康富 2010 幼小の接続期におけるカリキュラムに関する一考察 鎌倉女子大学紀要 第17号
- 井上弥・朝倉淳・池田明子・中山芙充子・吉原智恵美・青原栄子・石井信孝・金田敏治 2010 子どもの経験を階層的に生かす幼小連携カリキュラムの開発（7）—自然現象に焦点を当てて— 広島大学学部附属学校共同研究機構研究紀要第38号

* 研究をすすめる上でご協力いただきました幼稚園と小学校の皆様にご心より感謝申し上げます。